

速 報

No. 2

昭和 4 4 年 5 月 2 6 日

九州大学大型計算機センター

1 利用者が使用できるコア容量について

従来利用者が使用できるコア容量として55K語開放されてきました。そのため55K語以上のコア容量を使用するプログラムは「主記憶なし」というメッセージにより実行不可能として返却され、御迷惑をおかけしましたが、システム状態が次第に落ち着いてきましたので6月1日より65K語のコアを使用できるようになります。

2 制御文の機能の制限と追加された制御文

制御文LIEDRUNは利用の手引ではすべての言語に有効なものと記述されていますが、現在FORTRANにのみしか有効ではありません。従つてALGOLの場合は当分の間、LIEDRUN1という制御文を使用してください。この措置は極めて近い将来改善され、LIEDRUNがすべての言語に有効になります。

例

FORTRANの場合

\$ NO 123456

\$ QJOB

\$ FORTRAN

FORTRAN
ソースプログラム

\$ LIEDRUN

データ

\$ JEND

ALGOLの場合

\$ NO

\$ QJOB

\$ ALGOL

ALGOL
ソースプログラム

\$ LIEDRUN 1

\$ JEND

3 制御文のパラメータの変更

o \$ FORTRAN について

利用の手引には最適化コンパイル (OPT:コンパイルのオブチマイゼーション) をするかしないかの選択の時省略すると最適化することになっておりますが、省略すると普常のコンパイルをする (NOOPT) ということにいたしました。

o \$ ALGOL について

パラメータの「CR」を「HTYPE」に変更しました。

HTYPEの指定はジョブ制御文\$ CONVとは無関係です。

Hコードで穿孔したカードデッキには\$ CONVを挿入すると共にHTYPEの指定もしなければなりません。

制御文のパラメータの順序について

利用の手引には特殊なパラメータ (課題番号、登録番号、ジョブ種別) 以外のパラメータの順序はどうでもかまわないことになっておりますが、今後は位置パラメータはキーパラメータ (= のついたパラメータ) の前になければならないことになりましたので御注意ください。位置パラメータまたは、キーパラメータ各々の中での順序はどのようにしてもかまいません。

例 \$ FORTRAN COMP=1, MAP 誤 エラーとなる

\$ FORTRAN MAP, COMP=1 正

以上の変更により、とりあえず、以下の利用の手引の項目を訂正してください。

P41 パラメータ NOOPT → OPT

// NOOPT を記入したときと省略したときの記述を入替える。

P43 パラメータ CR → HTYPE

P37 下から11行目～12行目を次のように変更

- ⊙ ……………かまいませんが、=を使用しないパラメータが=を使用するパラメータの後に穿孔されてはいけません。
またパラメータ間の区切……………

4 負担金について

大型計算機センターでは計算機利用に際して、経費の一部を利用者の方向に負担していただくことになっています。4月、5月は試用期間ということで、負担金は徴収いたしません。6月1日からの計算に関しては、東京大学・京都大学の大型計算機センターと同額（CPU時間1分につき200円、入出力時間1分につき100円）の負担金を徴収する予定です。

本来、共同利用のセンターは無料で使用できるべきだとは思いますが、人員、経費の配当の少ない現状では、これもまたやむを得ないものと思います。

5 文法上の制限事項等について

o FORTRAN

6月1日現在FORTRANの制限事項その他について、以下に示します。

I) 以下の機能は、現在制限されていて、使用できません。

- (1) BUFFER文
- (2) 入出力動作状態検査文
- (3) 基本サブルーチンWAIT

II) STOP nについて

nが記号列の場合、記号列の中に‘=’（等号）があるとSTOP文

になりませんので御注意下さい。

Ⅲ) ソースプログラムの中にブランクカードが入っていると、レベル2のエラーとなつて、そのジョブは実行されませんので御注意下さい。

Ⅳ) DEBUG文について

(1) SUBCHK文は使えません。

V) NAMELIST名付きREAD文で、データを与える時、データカードについては以下の様になつていきますので御注意下さい。

変数名=定数 (or 配列名=定数の並び)

(1) 変数名が複素数型 (or 倍精度複素数型) の場合には、定数が実定数 or 整定数であると、エラーとなつて、そのジョブは計算されません。

同様に、変数名が実数型 or 整数型である場合には、定数が複素数型 (or 倍精度複素数型) はできません。

(実変数名=整定数 or 整変数名=実定数)
はできます。

(2) 定数として、文字定数は使えません。

o ALGOL

I) begin の後の宣言部でエラーが起きた場合そのブロック全体が読み飛ばされますので、そのブロックに関しては何のコンパイルチェックも行なわれておりません。

II) プログラムの最後の end の後での注釈文 (end comment) はカード1枚分だけになつております。2枚以上になりますとエラーとなつて、そのジョブは実行されません。

III) begin と end の対応がくずれると入力したプログラムの途中でコンパイルを中止したり、次に読み込むべきプログラムがないという意味

の読み込み障害のエラーを検出したりします。

Ⅳ) 現在パンチ出力はSYSOUTを通さずに行なっておりますのでパンチ出力がある場合には

```
AL 262W A.F300 DE 'SYSOUT' NO 'FCB  
PARAMETER' AYAMARI
```

の警告がでますが、計算結果には関係ありませんので気にしないで下さい。

6 SSLに関して

現在、九大センターのライブラリとしてファイルに組み込まれているのは、富士通より提供されているSSLです。

使用方法等については、6月中には富士通より「SSL使用方法解説書」FORTRAN編、ALGOL編が発行される予定です。とりあえずSSLを使用される場合は、プログラム相談室においてある仮仕様書を参照して下さい。

なお、ALGOLについては、以下のものは現在組み込まれていませんので御了承下さい。

	(単精度)	(倍精度)
G/013	AHERMT	BHERMT
G/015	ADANEW	BDANEW
G/020	ACDANW	BCDANW
C/001		BDFLA
I/005		BCHEB
I/008		BCBTAP